

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503486		
法人名	株式会社 ゆうらく		
事業所名	高齢者グループホーム「遊楽館」平岡 1F		
所在地	〒004-0874 札幌市清田区平岡4条1丁目12-4		
自己評価作成日	平成22年7月26日	評価結果市町村受理日	平成22年10月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503486&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成22年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方の思いをくみとり、その人らしい生活を続けて頂けるよう足りない部分のお手伝いをさせていただいている。 その方の思いや辛さを受け止め、少しでも楽しい毎日をおくっていただけるよう取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、緑豊かな住宅街に位置し、公園に隣接している。建物は、全体的に広々とした造りになっていて、車椅子使用の利用者が容易に移動できるように設計し、利用者は落ち着いてゆったりと暮らしている。管理者と職員は、事業所理念を常に意識した介護を心がけ、利用者の主体性を大切に、利用者の出来ないことに寄り添いながら、自立支援をしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針(理念)の中で地域との絆を大切にするとともに、その人らしさを尊重するように唱えられている。	運営者は、開設当初から、運営方針の中に「地域との絆を大切に信頼される事業所」を掲げている。管理者や職員は、会議や介護の場面で、理念に基づいているかの確認や話し合いを重ねて、常に、理念を意識した介護につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属して、地域の一員として活動に参加したり、ゴミ出しの際コミュニケーションをはかっている。	七夕行事などで、地域の子供達と利用者とのふれあいがあり、昔の遊びを習いに子供達が訪ねて来る等の交流が深まっている。利用者は、町内会行事の敬老会に参加をし、地域ボランティアによるギターと唱歌や童謡を歌い交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方へ施設の説明を行うとともに、認知症についても触れ理解を求めている。施設への訪問も歓迎していることもお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では評価に目通していただいている。開催の都度報告し、意見、感想を述べて頂いている。	運営推進会議は、町内会役員、地域包括センター職員、家族代表を構成メンバーとして、今年から2ヶ月毎に定期開催している。会議では、事業所の取り組み状況や外部評価等の報告を行い、町内会の情報も聞き、事業所行事や事業所運営に活かしている。	会議のテーマによっては、構成メンバーに加えて、家族や地域住民に幅広い視野で参加協力を依頼し、利用者の暮らしぶりや事業所の取り組み、運営状況を理解してもらい、課題改善に向けたモニター役としての取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	頻繁ではないが、市の職員の方や、包括の方に確認や意見を頂いている。	市や区の担当職員とは、窓口や電話で申請書類の提出や事故報告、福祉用具に関する件などで報告や相談をし、情報交換をしている。また、事業所の防災設備の点検確認に来ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	身体拘束に関する研修資料を参考に、ユニット会議で勉強会を開き、意見交換をしている。管理者は、介護の場面で、職員の話しかけ方による言葉の拘束をしていないか常に確認し注意している。玄関は防犯の為、夜間のみ施錠し、日中は開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で虐待について話し合う機会を設け、再確認をしながら防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、主として管理者が入居者の制度利用に協力支援している。職員と学ぶ機会は設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には全部読み合わせ、更に補足説明を行い質問にお答えし、理解を得て締結に努めている。解約時も同様。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内部、外部の苦情窓口を明記している。職員が受けたものは管理者が入居者の意向を確認し、再度職員に伝え今後の取り組みに活かしている。	運営推進会議の議事録を全家族に送付し、事業所の状況や課題を知らせ、意見を聞いている。また、ケアプランの説明時には、利用者の介護についての意見、要望を聞き、計画に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改めて機会を設けてはいないが、職員から意見や提案があれば話し合って反映させている。	職員からの意見要望で、利用者の状況を踏まえた勤務時間帯の変更を、柔軟に実施している。また、新人職員の新鮮な視点も大切にしている。個人面談を年1回実施している。法人代表は、馴染みの関係を重視し、職員異動は最小限にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況の把握につとめ、環境整備にあたっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修への参加を力量をを把握し勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区のグループホーム管理者の連絡会に参加し、勉強会に出席する中、交流を深め情報交換することでサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談をし、少しでも不安を取り除ける対応、入居後は早く慣れ、安心を得ることで関係作りができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望等を伺いながら話をしていくことで、関係作りができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントを行い、本人家族の思いを汲みとり必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしのパートナーとして、共に過ごし支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や必要に応じて電話にて、状況を伝えご相談しながら、共に支えて行く関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方が来訪されたり、電話が来る等、関係は継続している。いつでも気軽に来ていただけるようお話している。また、馴染みの場所へ出かけられるようご家族の協力を得て支援に努めている。	金銭の自己管理をしている利用者には、郵便局に同行し見守り支援や、継続出来るよう字を書く練習等の支援もしている。月命日のお参り、デイサービス、選挙、友人との外出等、利用開始前からの生活習慣や趣味を把握して、継続支援につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し、食事の席なども考慮している。一人になることのないようパートナーが間に入る等し関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてお伝えし、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々関わり話をしていく中、本人の思い、希望を伺い把握に努めている。困難な場合は、本人本位で考え、より近づけるよう工夫している。	職員は介護場面での利用者との関わり方を重視し、日々の記録に利用者の心身の状況を詳細に記載し、利用者の意向を職員間で共有しながら次の介護につなげるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人から情報収集し、その人らしい暮らしの継続に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースを理解しながら、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を確認したり、毎月のカンファレンスで話し合い、意見交換し、それをもとにケアプラン作成にあたっている。	介護計画の評価時期に、利用者の生活リズムや介護場面での関わり方を1週間程度詳細に記載し、カンファレンスで担当職員が中心となって意見交換をし、24時間アセスメントまとめシートに整理、評価して、新たな介護計画作成に反映させている。	職員は、利用者の主体性を大切に、出来ない事に寄り添い支援する為の、アセスメント・モニタリングを行っているが、その情報が介護計画に十分反映されるよう、より具体的な計画内容の立案を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記入している。要望や変化があった際には、ご家族にも見ていただき情報を共有し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて対応している。(マッサージ等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学校と連携を図り、資源回収には入居者とともに、ステーションに運ぶなどしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の提携医による往診がある。また、ご家族の希望により入居以前からのかかりつけ医に受診されている方もいる。	本人や家族の希望により、利用開始以前からのかかりつけ医を継続受診している利用者もあり、通院支援をしている。家族が同行しない場合は、電話などで利用者の状況や受診結果を報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で週2回ではあるが、看護師が勤務しているため、受診、往診時の対応を行っている。また、24時間オンコール体制で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	直接、またはご家族を通じて情報交換し、状況の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLの低下等についてはご家族にお伝えし、今後についてどうすることがよいのか話し合うなどしているが、ターミナルについてはなく、また取り組みとしても行っていない。	医療連携体制を整備して、利用開始時に本人や家族の意向や事業所で出来る支援を説明し、同意書をもっている。重度化した場合の段階的な話し合いや方針を共有して対応しているが、重度化に伴う対応指針書の作成までには至っていない。	家族や本人によりわかりやすい、重度化に伴う対応指針書を作成し、事業所で出来る最大の支援内容を説明して、安心納得出来る支援を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時、普通救命救急講習は受けているが、定期的に訓練は行えていない。マニュアルを置き全職員が把握できるようにしている。また、少しの変化も見逃さないよう気づきを大切に、職員間で連携をとっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い指導を受けているが、地域との協力体制の構築は現在行っているところ。	昨年は、消防署指導の下で、日中の避難訓練を2回実施している。今年は、5月に消防署指導で、夜間想定避難シュミレーションを実施している。9月に夜間想定避難訓練を予定しており、近所にも参加協力を呼びかける予定となっている。	近所や地域住民と協力体制についての話し合いを重ね、支援体制の整備を期待したい。また、夜間やあらゆる想定で、確実に避難誘導が出来るように繰り返し訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活歴等把握した上で、プライドやプライバシーを尊重した対応をしている。	新人研修で、尊厳やプライバシーについての勉強をしている。職員は利用者の思いを常に意識し、大切に利用者と向き合うように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度確認するのはもちろんのこと、表情の中から思いをくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、時間を気にすることなくその人らしい生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室や買い物(洋服)へ行き、希望に添いながら支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを伺いながらメニューを立てている。調理や準備の際お手伝いして下さる方もいる。	食事は生活の中の楽しみの一つなので、米とぎや配送された食材チェック、調理など、利用者のしたいこと出来ることを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ナースと相談しながら、一人ひとりに合った量の工夫をしている。カロリー計算には至っていないが、メニュー作成時、糖、たんぱく、脂、ビタミン、ミネラルなどのバランスを考える努力はしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや準備により行っている。また、本人の力に応じてブラッシングや、仕上げ、ガーゼによる清拭もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンを把握しトイレ誘導している。おむつを使用されている方もいるが、常時ではなく、日中はトイレに行っている。立位不安定な場合などは2人介助をし、できるだけトイレでの排泄が可能なよう支援している。	職員は、利用者個々の排泄パターンを把握し、表情、仕草等を見逃さず、時間毎のさりげないトイレ誘導で自立に向けた排泄支援をしている。夜間は、利用者によってはポータブル便器を利用して、失敗を最小限にするよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や飲み物で工夫している。また、個々に必要に応じて下剤を使用している。毎日ラジオ体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望があまりないため(嫌いな方が多い)職員が間隔をみて声掛けしている。みかんの皮を浴槽に浮かべたり、入浴剤を使用するなど楽しめるよう工夫している。	入浴は、曜日や時間帯は特に決めず、利用者の入浴したい時に、常に一番風呂で入浴できるように湯を張り替えて準備をし、見守りや介助の支援をしている。入浴を拒む利用者には、その都度、色々な工夫を試みながら支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況、本人の気分も把握しながら、椅子で傾眠されているときは、ベッドでゆっくり休まれるよう声掛けしている。枕の検討等もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状を把握し理解に努めている。また、変更があった際は、特に注意し少しの変化も見逃さないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や興味のあることを探し、それを活かし拡げていけるよう、職員同士、またはご家族と相談しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調、気分に考慮しながら外出にお誘いしている。また、自宅へ帰りたい等との訴えがある際は、ご家族と相談しながら、また協力も得ながら出かけられるよう支援している。	畑で弁当を食べたり、庭でバーベキューをして楽しんでいる。車椅子使用の利用者も、遠出の外出が出来るように、リフト付バスを所有している。動物園やビール工場見学、レストランでの食事、喫茶店でのコーヒーやアイスクリーム等、楽しみながら外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを所持されている方もいる。外出時には、職員が支払い分をその場でお渡しし、本人から支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ本人、または職員が代わりにかけている。手紙は本人が書かれたものを職員が出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ等、場所がすぐわかるよう暖簾やプレートを貼り、混乱することのないよう工夫している。また、本人と一緒に摘んだ花などリビングに飾り、季節感を味わっている。	共用空間は、全体的に広くゆったりと設計していて、開放感が感じられる。車椅子使用の利用者も、事業所の到る所へゆったりと移動できる広さがある。トイレには、男性用便器も設置しており、利用者の自立支援につなげている。また、2～3人の休憩スペースを随所に設け、和みのスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休憩コーナー、夏はテラス等、一人ひとりまたは入居者同士の談話の場として居心地よく過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ってきて頂けるようお願いしている。また、本人の好みのものを購入するなど居心地よく居室で過ごせるような工夫をしている。	居室も広く、明るく、車椅子使用でもゆったりと過ごせる空間になっている。利用者は、自分の使い慣れた馴染みの家具や仏壇、テーブル、机、趣味の物を持ち込み、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」を見極め、少し離れたところで見守りする等し、できるだけ本人の力が発揮できるよう支援している。		